

講演 1 : 医療介護連携ICTの可能性と展開による成果



睦町クリニック院長
横浜市立大学医学部臨床教授
朝比奈完

2020年6月13日



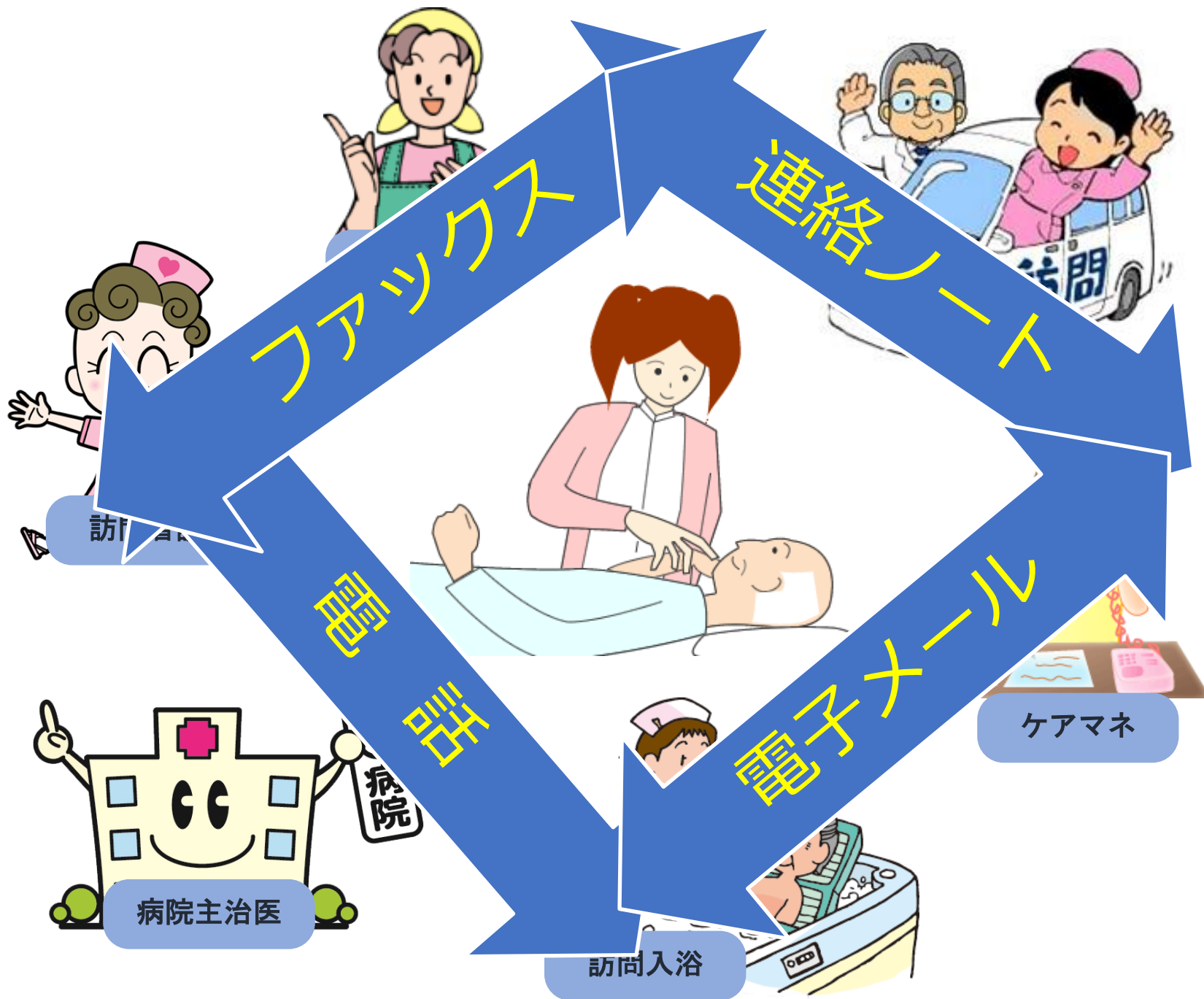
医療介護連携ICTの 可能性と展開による成果

睦町クリニック
朝比奈完



高齢化率27%





医療介護連携のための ICTの利用の経緯

- 2009年11月：サイボウズLive[®]β版公開
- 2010年04月：70歳代前立腺癌末期患者に訪問看護ステーションとの運用開始
- 2011年：第22回日本在宅医療学会学術集会で「クラウド上のグループウェア・サイボウズLive を用いた在宅医療における情報共有の試み」と題して発表

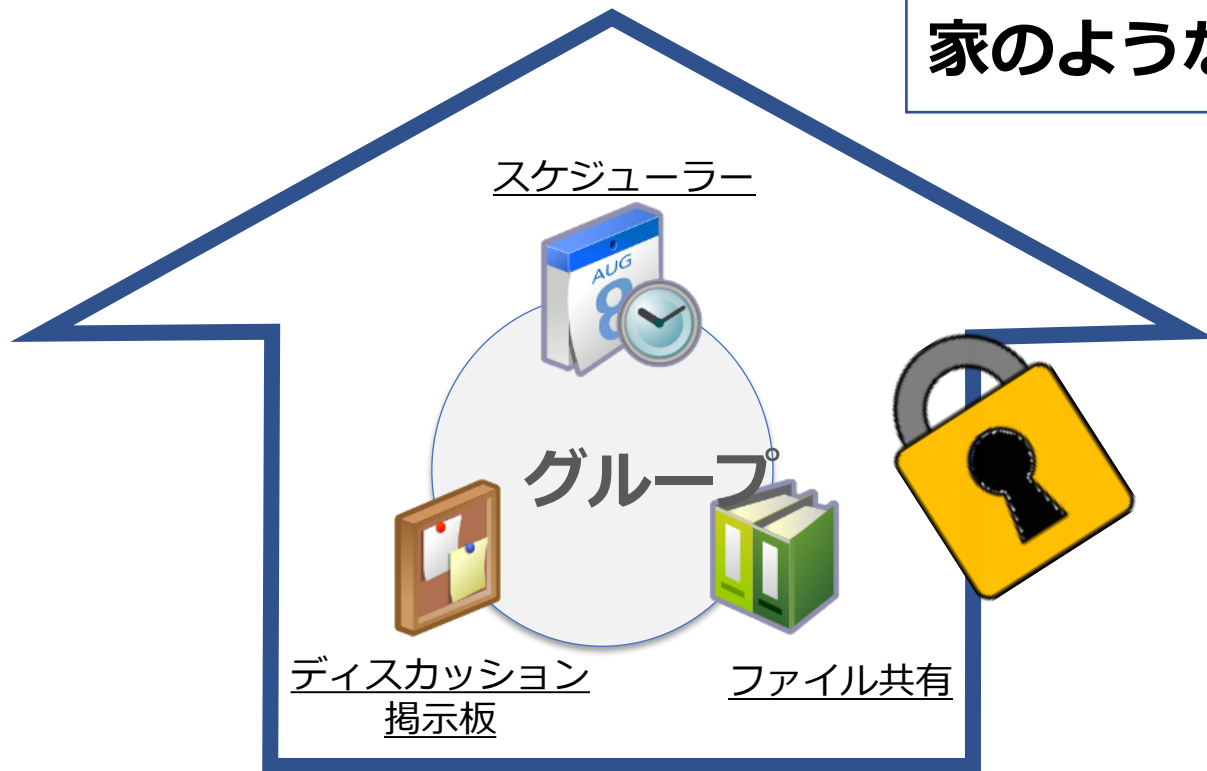
従来のネット上の掲示板



鍵はかかっているが、表札を出している家のようなもの
誰の家かはわかるが、中に誰がいるか、どんな話をしているかは分からない

サイボウズLive[®]ではグループを簡単に作成

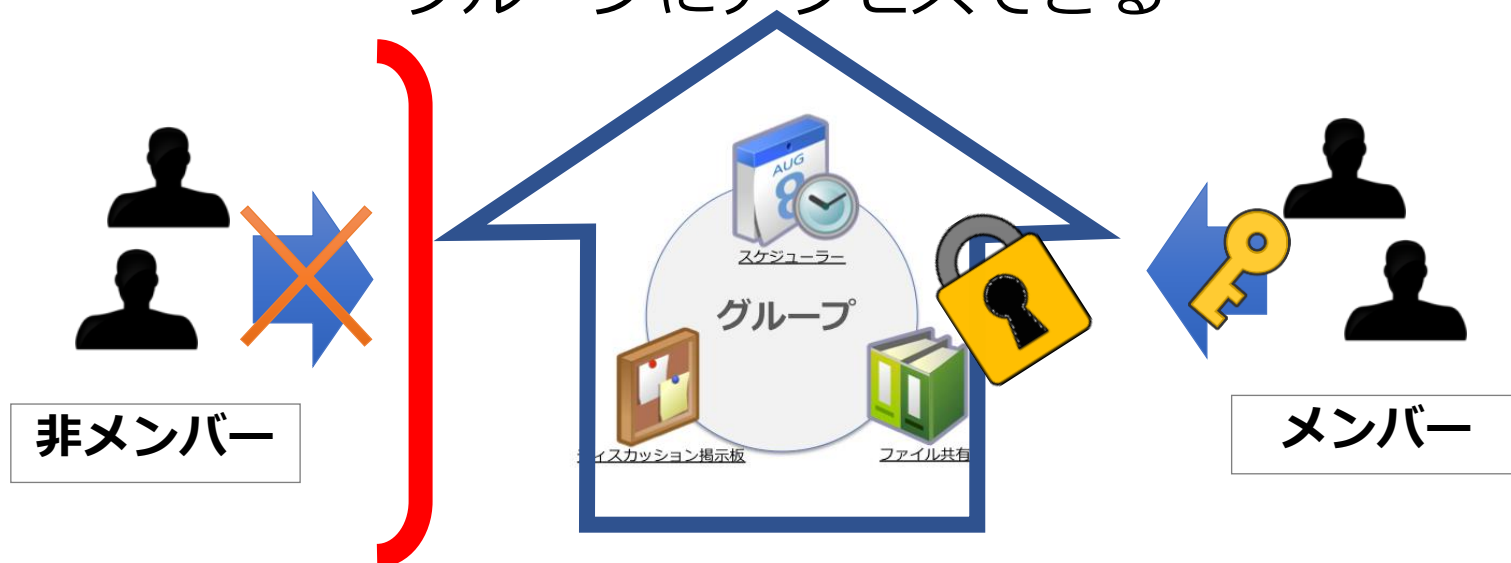
家のようなもの



グループ内で利用できる主な機能
スケジューラー、ファイル共有、ディスカッション掲示板。

簡単に高度なセキュリティ

グループに招待されたメンバーだけが、
グループにアクセスできる



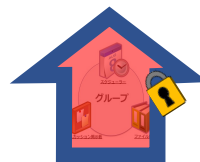
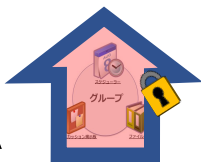
メンバーはグループ管理者より招待される必要がある
メンバー以外はグループの存在すら知られることもない
グループ内の情報にアクセスはできない

すべてのデータは暗号化されて送受信

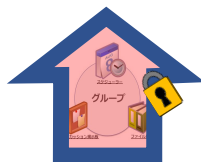
グループ作成数は無制限



A



B



存在しない

C

存在
しない



存在
しない



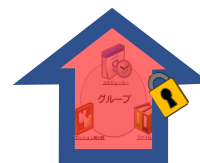
存在しない

D

存在しない



存在しない



在宅医療でのグループの作り方

- 1 患者 1 グループ
- 患者名をグループ名
- メンバーはかかわるスタッフのみ
(クリニック職員、訪看、ケアマネ、etc)

サイボウズLiveからMCSへ

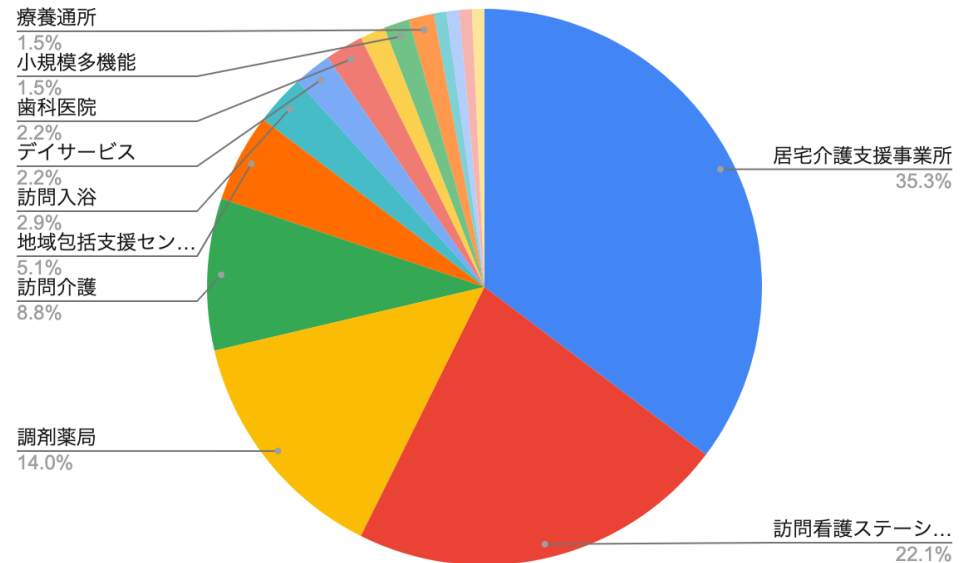
- 2019年4月でサービス終了
- 2019年3月1日よりMCSへ移行
- MCS (Medical Care Station)
無料・非公開型医療介護専用SNS

全ての情報をMCSへ

- 外部（他職種）との情報共有
- 内部（院内）での情報共有
 - 紙情報（診療情報提供書、FAX、 ）は全てスキャン
 - 電話連絡は要約を記録
 - 担当者がいなくても、誰でも対応可能

当院におけるMCSでの連携先

事業所種別	件数
居宅介護支援事業所	48
訪問看護ステーション	30
調剤薬局	19
訪問介護	12
地域包括支援センター	7
訪問入浴	4
デイサービス	3
歯科医院	3
サービス付き高齢者住宅	2
小規模多機能	2
療養通所	2
グループホーム	1
介護付き有料老人ホーム	1
病院	1
鍼灸マッサージ	1
合計	136



2020年5月

**ICTによる情報交換は
多職種の業務を圧迫するか？**

サイボウズLive利用アンケート調査

- 2011年5月末（利用開始13ヶ月目）
- サイボウズLive利用事業所80件調査票
- 回収62件（回収率78%）

勤務先・職種

施設	件数	職 種	人数
訪問看護	29	看護師	33
居宅介護支援事業所	19	ケアマネージャー	23
調剤薬局	2	薬剤師	2
病 院	2	介護士	1
病院地域連携室	1	MSW	2
小規模多機能	1	その他	2
グループホーム	2	合計	63
通所介護	3		
地域包括支援センター	2		
その他	1		
合 計	62		

業務負荷・情報の質

あまり業務量が増えたと感じない	35
業務量は増えたがメリットもある	19
業務量が増えて困る	6

86%

必要な情報が増えた	52
必要な情報も、 unnecessaryな情報も増えた	6
unnecessaryな情報の方が多い	0

83%

アンケート調査から…

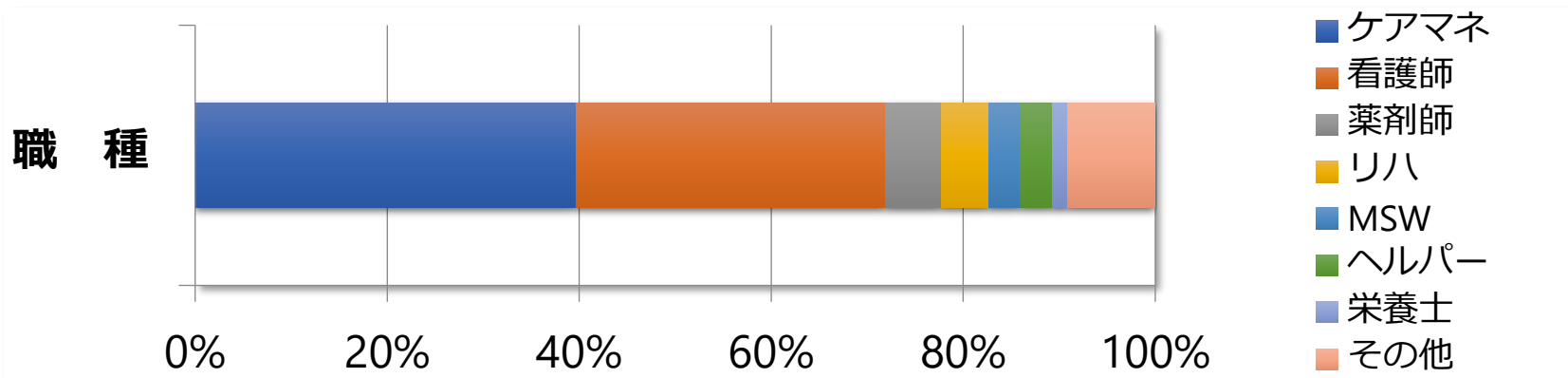
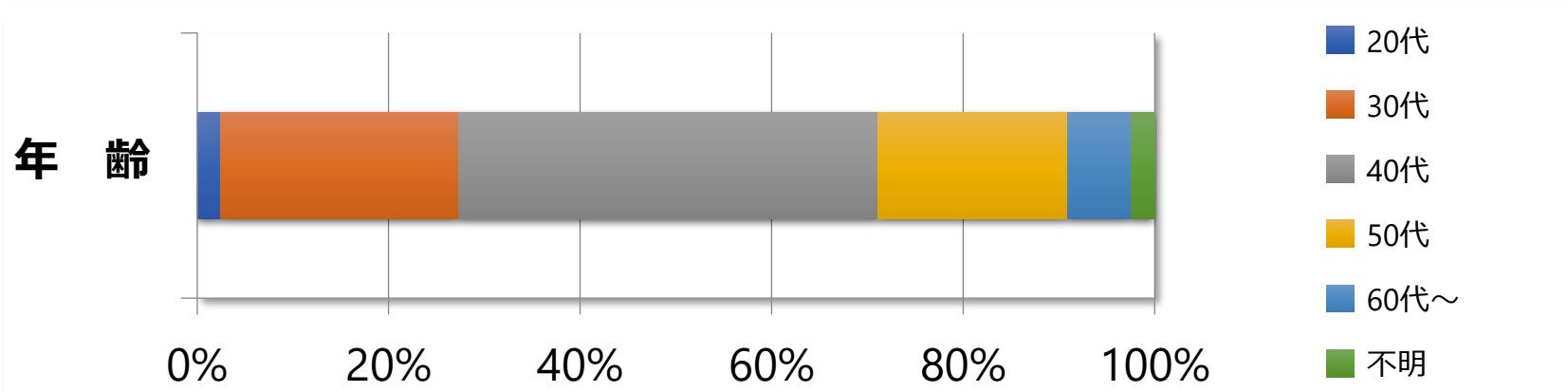
- 必要な情報が増えた
- 負担感よりメリットを強調

**医療介護連携ICTは
有用な情報共有ツール**

そうは言っても
やりづらい

アンケート調査 (2013年2月)

- 郵送：180通（当院とサイボウズLive使用歴のある在宅スタッフ）
- 回収：121通（67%）
- 男性：25名、女性：92名、不明：4名



連携の壁

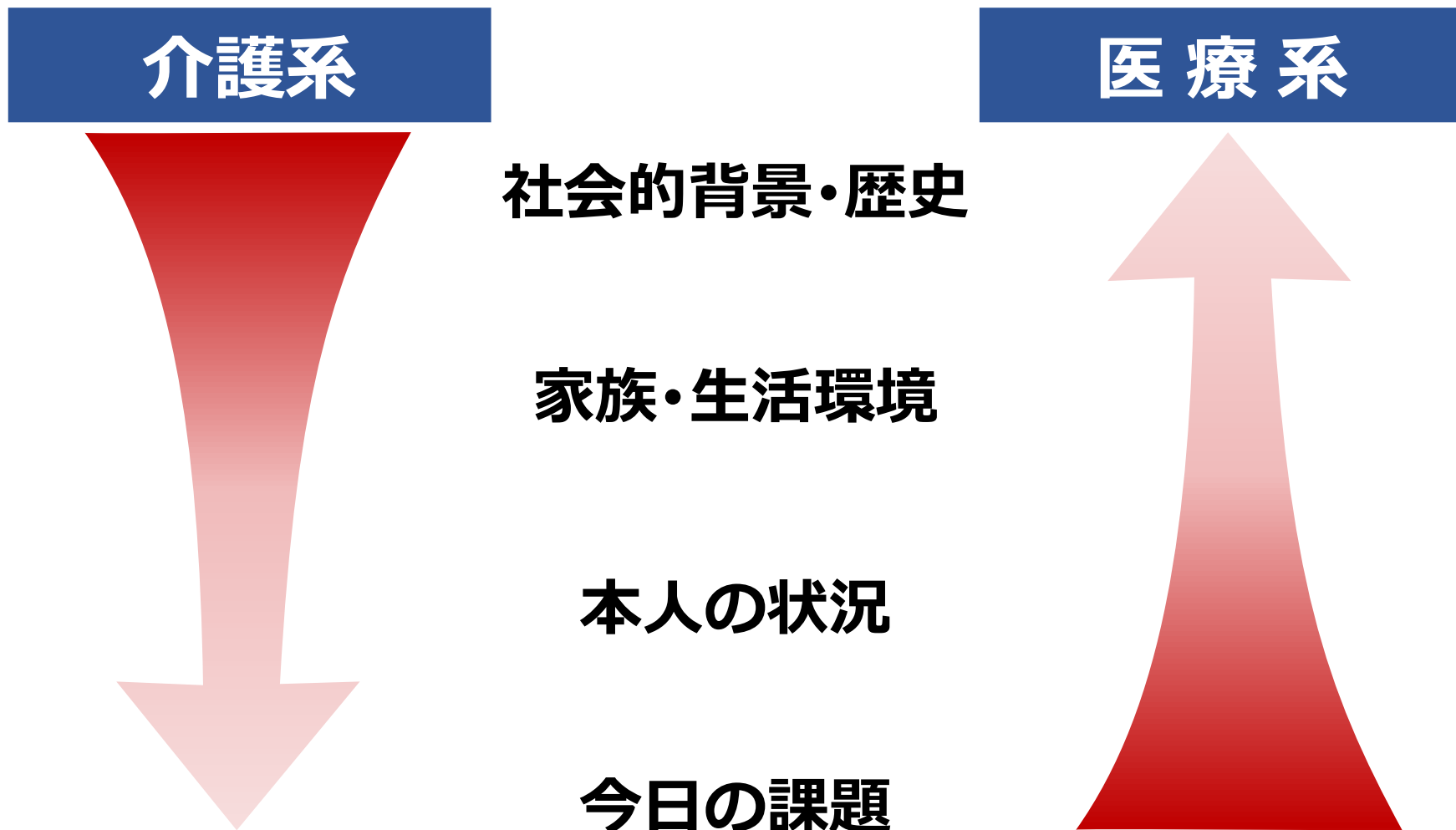
介護系から医療系へ：

心理的抵抗・専門用語

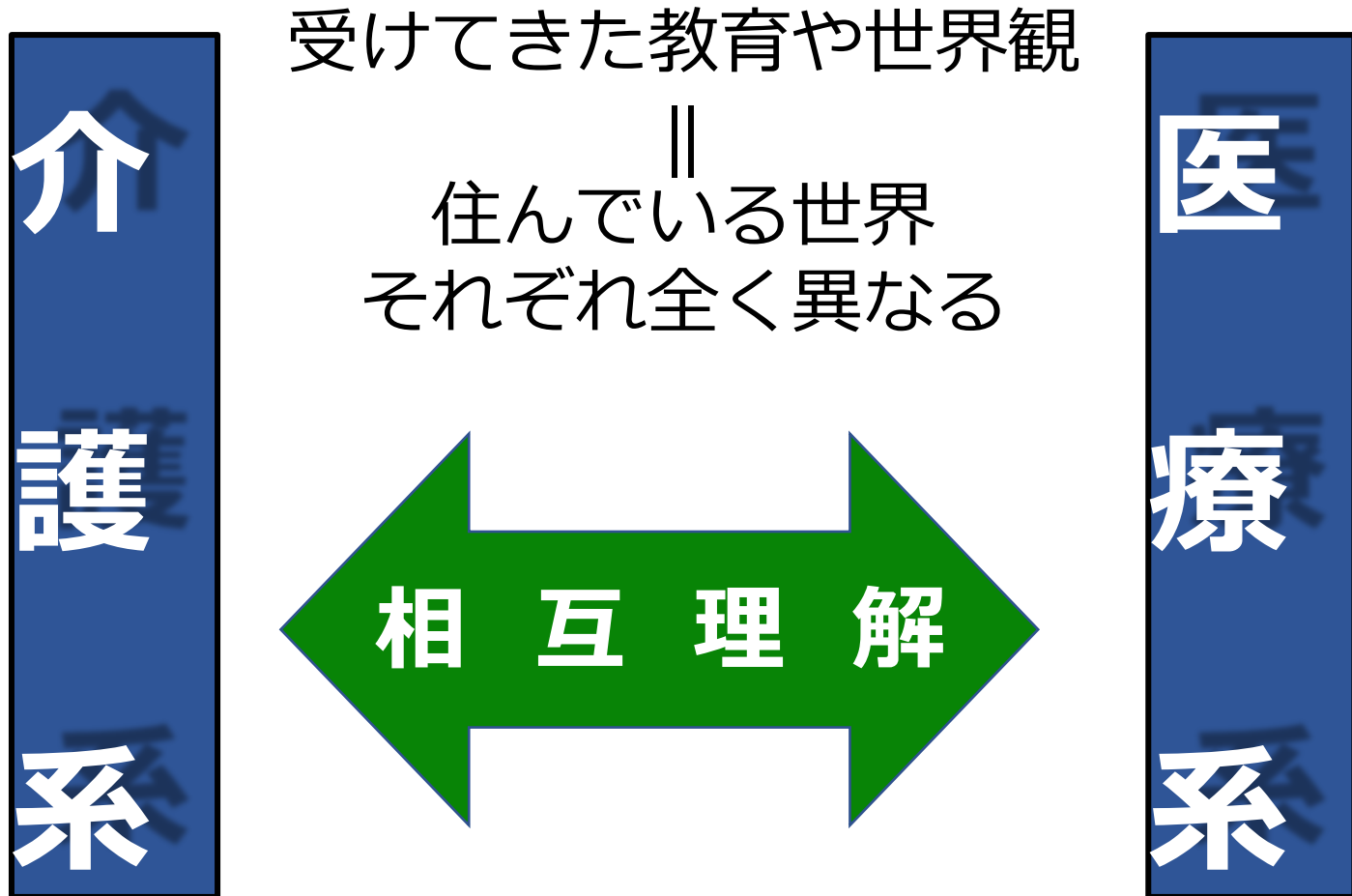
医療系から介護系へ：

表 現

医療と介護の表現の違い



医介連携とは異文化交流



最大の連携障壁は？

- 90%の他職種が「聞きづらい」
- 80%の他職種が「伝えづらい」



医師

まず、医師の方からアプローチ

- 医師の方から情報発信をする
- 医学用語を極力使わない
- 他職種の発言を頭から否定しない
- お礼をいう
- 自分が知らなかった視点には感動を伝える

怒らない

掲示板に溢れる情報は？

- **自分の職種には無関係な情報が多い**



- **雑多な情報の中から、必要な情報を選択するスキルが必要**
（新聞の沢山ある記事の中から、興味ある記事を取捨選択するような行為）

2010年4月 サイボウズLive利用第一例目

- 70代男性、癌末期で2009/12～在宅緩和ケア
- 2010年4月1日よりサイボウズLive利用
- 夫婦二人暮らしで子供なし
- 末期せん妄
- 4月19日未明にご自宅で逝去

ある時から、私の言ったことが他のみなさん（医師/看護師）に伝わっていて不思議な感じがした。支えられている、と思った。

もう少し一緒にいたかった。

結婚してからは、夜、家に帰ると明かりがついているのがすごくうれしかった。

また、あの暗い部屋に帰らなくてはならなくなると思うと、つらい。

でも、かかわってくれた方々の暖かさ、支えがあったので、夫を自宅で看取ることができた。

結 語 ①

- 情報を共有することで人を支えることができる
- データの共有から想いや感情という意識の共有へ
- 連携からチームへ
- 情報共有を通じて人は成長できる
- 情報を共有するための**適切なツール**が必要

結 語 ②

- 医療介護連携は異文化交流
- 医師の方からアプローチ
- 頭から否定しない
- 絶対に怒らない

ありがとう
ございました

